

一般質問

9月定例会では、17人の議員が一般質問を行いました。(順不同)

Q&A



一般質問とは、本会議で議員が市政全般にわたって市長等(執行機関)に対して疑問点を質問したり、政治姿勢を明らかにしたりするものです。



真に市民の立場に立ったフロントヤード改革を！
「公明党いせはら」 今野 康敏

Q 窓口の受付時間を短縮すれば市民サービスが低下することは明らかであり、信頼失墜につながる。窓口時間短縮のトライアルは真のフロントヤード改革を推進し、その効果を見極めてからでも遅くはないと考えるが、市長の考えを伺う。

A 【市長】 窓口部門の職員は業務の見直し、課題解決に充てる時間が不足し、業務時間の有効活用ができていない状況である。職員の負担軽減に取り組まなければ、やがては市民サービスの質も維持できない。



市内体育館のエアコン設置について
「進風会」 荻野 貴文

Q 市内の体育館のエアコン設置について、市長の見解を伺う。

A 【市長】 公共施設の空調整備については、優先順位付けして、効率的に整備していかねばならないと認識している。小中学校の体育館も進めていかなければならないことから、さまざまな方



体育館への空調設置の具体的な方向性について
「いせはら未来会議」 森尾 武史

Q 体育館改修の内容や実施年度を変更し、空調設備設置の追加を明文化すべきと考えるが、市の思いを伺う。

A 【教育部長】 学校施設個別施設計画は、学校施設の状況を取り巻く変化等に対応するため、策定後5年から10年で改定することを基本としつつ、社会情勢の変化等により適宜見直すこととしており、来年度中の計画改定に向けて、現在検討を進



令和8年新春市民の集いを開催しない理由
「志政会」 小沼 富夫

Q 新春市民の集いを実施しない理由として、市長が各自治会や各種団体主催による賀詞交歓会に出席して、新春市民の集いの参加者と重複しているためとのことだが、市長のための新春市民の集いではないと考えるが、見解を伺う。

A 【市長】 予算審査では、参加状況、経費の在り方等、社会環境の変化も含め総合的に見直しを行い、



都市計画を活用した活性化策について
「いせはら為成会」 館 大樹

Q 観光を促進させるための都市計画の用途変更の可能性について伺う。

A 【都市部長】 本市は、小田急小田原線の駅を中心として都市開発が進み、商業地、住宅地、工業地と計画的に土地利用を進めてきた。大山・日向地区は、都市マスタープランにおいて「やまの地域」に位置付けられ、自然や歴史、文化等、先人から受け継いだ地域資源の活用と保全により、個性と魅力あるまちづくりを推進している。また、景観



荒廃農地の対策について
「いせはら未来会議」 安藤 玄一

Q 厚木市では、耕作ができない農地に対して、借りる側、貸す側両方にインセンティブを与え、農地減少を抑えたという成功事例がある。本市では農地減少が進んでいるが、市長の見解を伺う。

A 【市長】 耕作放棄地の発生要因は、高齢化の進展や後継者の不在、新たな就農者の伸び悩みなど、農業の担い手不足によるものが大きいと認識している。



子どもの権利保障を土台にした不登校支援を
「日本共産党」 川添 康大

Q 今後策定される不登校対策基本方針をどう具体的に実現していくか伺う。

A 【教育長】 教育委員会では、不登校を経験した方やその保護者、学びの多様な学校やフリースクール等のスタッフが、今の学校をどのように感じているか、教職員が直接聞き、対話を通じて意識転換の大切さを実感できる機会を設けていく。さらに、次期学習指導要領の改訂に向け、これからの5年間は、各学校が学校本来の使命や魅力を再確認し、新たな指導観の下、



本市の土砂災害対策の現状と今後の対策について
「いせはら為成会」 長嶋 一樹

Q 本市は大山・日向地区などに山地や急傾斜地等が点在し、土砂災害のリスクが高いと思うが、土砂災害対策について伺う。

A 【危機管理担当部長】 都市化の進展に伴い、土壌の持つ保水機能が低下し、中山間部においては大雨に伴う土砂災害の危険性が増大している。こうした危険性を示す区域として、土砂災害防止法に基づき、神奈川県が指定する土砂災害特別警戒区域、いわゆるレッドゾーンと警戒区域である

【その他の質問】
◎特定外来生物について